



## コミュニティ・スクール(CS)だより 第2号

### ☆広がる学校支援ボランティアの輪☆

今年の協働活動の目標の一つに「甲南中部小学校に関わってくださる地域の方々の人数を増やすこと」を掲げ、1学期より新たなボランティア募集を行ってきました。

その結果「水泳見守りボランティア」には保護者や地域の皆様合わせて17名が18日間にわたり猛暑にもかかわらずご参加いただきました。おかげさまで安心・安全な水泳授業を行うことができました。また、5年の家庭科の「手縫いボランティア」には3名、1年の「計算カードボランティア」にも3名の方が名乗りを上げていただき、それぞれ学びの充実・習熟にお力を貸していただきました。ご参加いただいた方々には心よりお礼申し上げます。

2学期以降も新たなボランティアも含め募集をしていきたいと思いますので気軽にご参加いただけるとありがとうございます。



【1年計算カードボランティア】



【水泳見守りボランティア】

### 【令和7年度第2回学校運営協議会の概要について】

■日 時 2025.9.12（金）18:00～20:30

■場 所 校長室

■参加者 学校運営協議会委員 8名 学校職員 4名 社会教育指導員 1名 計13名

○議事（進行：地域コーディネーター）

- (1) あいさつ…校長
- (2) 前期学校評価（保護者・児童アンケート集計）について…校長

#### 【主な意見】

- ・「良いこと見つけ」は自己肯定感につながる。小学校で培った自己肯定感が大人まで続くと良い。
- ・まずは家庭で子どもの「良いところ」を見つけることが大切だと思う。
- ・たくさん「ありがとう」が言える学校であってほしい。
- ・コミュニティ・スクールで学校がめざす事は何かについて地域で共有することが大切→地域への発信の工夫→地域が子どもたちにできることをする（学校に返す）
- ・正しい性教育の推進をお願いしたい。
- ・暗記するのではなく「考える力」は絶対必要→学力について今後検討

- (3) 「中部っ子まつり」について…推進員から報告・説明

- (4) その他

- ・地域での子どもの様子について
- ・夏休み中の地区花壇の世話について
- ・飼育小屋の利用について 等について意見交換

- (5) 社会教育指導員より

- ・成功体験を積み重ねることによって自信が生まれ、自己肯定感が高くなる

## ＝地域の皆様へのお知らせ・お願ひ＝

### 【1】2年生対象の九九ボランティアを募集します！

①期日 11月4日（火）～12月18日（木）の火曜日、木曜日の昼休み（12：50～13：20）

※11月20日（木）は中部っ子まつりのためやりません

②ボランティアの内容

- ・子どもが唱える九九を聞いていただきます
- ・間違えなく言えたら合格シールを貼っていただきます

※1回でも参加できるようであれば学校（TEL86-2139）までご連絡ください



### 【2】「中部小学校に行ってみよう！」プロジェクトについて



「ボランティアに参加してみたい」という気持ちはあるがやはり学校は敷居が高い」という声を聞きます。また、子どもや孫が卒業してしまうとどうしても関心はあっても学校とは縁遠くなってしまうのです。そんな現状を少し変えるため、ボランティア目的ではなく、もっと気軽に中部小学校を訪れてもらえるために地域に門戸を開いてみようというプロジェクトです。

学校には今も昔を偲ばせる多くの写真等も残っています。反面学校の様子も昔と比べて大きく様変わりしています。そこで、実際に学校に足を運んでいただき子どもたちの様子をつぶさに見ていただくことで中部小学校により関心をもっていただくとともに敷居を低く感じていただければと思います。例えば学校を訪れる理由として「同窓会を開催するに当たり小学校を見学しよう」とか「地域の会議を中部小学校でやってみよう」「老人クラブで子どもたちと休み時間に遊ぶ活動を入れてみよう」等いろいろなことが考えられます。

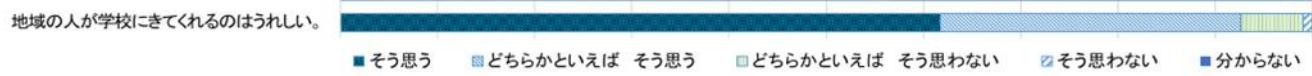
このプロジェクトに興味をもたれたら遠慮なく学校までご連絡ください。

### 【3】学校アンケートより

甲南中部小学校では、学校評価として子どもや保護者さんにアンケートをとっています。その中で「コミュニティ・スクール」に関する質問項目があるので抜粋してお知らせします。



上記のグラフから甲南中部小学校がコミュニティ・スクールであることはあまり周知されていないことが明らかになりました。コミュニティ・スクールは「地域と学校が一緒となって子どもたちを育てる仕組み」のことです。令和7年度、甲賀市内小学校の中で14校がコミュニティ・スクールです。甲南中部小学校はコミュニティ・スクール3年目です。どうかお知りおきください。



上記のグラフから、「子どもたちは地域のみなさんが学校に来てくださるのを楽しみにしています。是非「学校に行こうプロジェクト」や「ボランティア」も前向きに考えていただけたらと思います。